

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりを大切にし、みなが生きて生きることができる多様性を大切にする学校づくりをめざす。

- 1 「何ができるようになるか」を大切にし、生徒の視点に立った「わかる」授業づくりと「学ぶことがおもしろいと感じる」授業づくりをめざす。
- 2 人権教育を基盤にした生徒一人ひとりを大切にする「安全安心な学校づくり」を行う。
- 3 地域に根差した「面倒見のよい」地域の高校としての役割を果たし、生徒の多様な進路実現を支援する学校づくりをめざす。
- 4 2年後の閉校にむけて校内体制の改編に取り組み、学校行事の工夫など教育活動の質がより一層向上するよう取組む。

2 中期的目標

- 1 生徒の視点に立った「わかる」授業づくりと「学ぶことがおもしろいと感じる」授業づくり
 - (1) 新学習指導要領を踏まえ、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善に取り組む。
 - ア 基礎知識の習得、コミュニケーション能力の向上、学習意欲を高める取組みを組織的にすすめる。また評価方法の研究も引き続き行う。
 - ※学校教育自己診断（生徒向け）「授業がわかりやすい」を平成31年度には80%以上。（平成29年度76%）
 - ※学校教育自己診断（生徒向け）「グループ学習や発表形式の学習」を平成31年度には70%以上。（平成29年度61%）
 - イ ICT(プロジェクター等)を活用した授業を多様な教科で行い生徒の授業への満足度を向上させる。（H28-H30 学校経営推進費対象事業）
 - ※学校教育自己診断（教員向け）「ICT等の設備の活用」を平成31年度には90%以上を維持。（平成29年度94.4%）
- 2 一人ひとりを大切にする、安全安心な学校づくり
 - (1) 人権委員会を中心に人権教育、いじめ防止、教育相談、学習支援にかかわって連携を一層充実させ、一人ひとりを大切にする教育の充実を図る。
 - ア 学年・分掌・教科が連携し、SCやSSWなど外部人材や外部機関との関係を構築しチーム学校としての指導体制を行う。
 - 結果、中途退学者の減少につなげる。 ※平成31年度には10名以下。（平成29年度26名）
 - ※学校教育自己診断（教員向け）「外部人材や外部機関との連携」を平成31年度には80%以上。（平成29年度75.5%）
 - ※学校教育自己診断（教員向け）「教育相談体制の整備」を平成31年度には80%以上を維持。（平成29年度79.2%）
 - イ 人権HR等を通して、お互いを大切にする態度の育成をめざし、人権侵害を許さない学校体制づくりを引き続き進める。
 - ※学校教育自己診断（生徒向け）「互いに思いやることの大切さを学ぶ」を平成31年度には80%。（平成29年度73%）
 - ウ 生徒への安心アンケート等の活用し、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に取り組む。
 - ※学校独自の安心アンケートの不安度の肯定的回答を平成31年度には90%以上。（平成29年度89.7%）
 - (2) 防災教育の充実を図る。
 - ア 本校の立地から、東南海トラフの大地震を想定し、学校生活にとどまらず校外の一般生活でも自分の身の安全を守る方法や、周囲・地域の人への貢献を考える姿勢などを身につけさせる。
 - (3) 携帯端末（スマートフォン、タブレットなど）の取扱いやSNS上での個人情報の取扱いなどの正確な知識と安全な使用法を身につけさせる。
 - (4) 生徒が安全・安心に学校生活を送れるよう、美化月間や安全点検の実施など美化意識向上や事故防止の取組みを図る。
- 3 「面倒見のよい」地域の高校として多様な進路実現を支援する学校づくり
 - (1) 生徒・保護者・地域の多様なニーズに応え、進路指導の充実を図り、就職内定率、進学決定率の向上を図る。
 - ア 校内外の環境の変化に対応した進路指導を行い、就職内定率100%・進学決定率100%、進路未定率15%以下を目標とする。
 - イ 進学も就職もできる幅広い進路選択が可能な指導体制の充実に取り組む。
 - (2) 生徒の進路選択の可能性を広げるキャリア教育の充実を図る。
 - ア これまでのキャリア教育の取組み・成果を継承し、生涯学び続けようとする生徒を育成するため、学校外の人材や資産（施設・設備・機関）の活用を図る。
 - (3) 地域の企業、施設などの外部と連携し、職場体験・実習などの活動を充実させる。
- 4 2年後の閉校にむけて校内体制の改編と教育活動の向上
 - (1) 1学年減になるが、文化祭や体育祭などの学校行事に工夫を凝らし活性化を図る。
 - ※学校教育自己診断（生徒向け）「体育祭や文化祭には楽しく参加」を平成31年度には80%以上。（平成29年度74.9%）
 - ※学校教育自己診断（生徒向け）「学校へ行くのが楽しい」を平成31年度には80%以上。（平成29年度66.3%）
 - (2) 効率的な校内分掌や教員体制の工夫と一致団結した教職員集団
 - ※学校教育自己診断（教員向け）「教員間が相互理解しあい信頼関係が醸成」を平成31年度には90%以上。（平成29年度84.6%）
 - (3) 効率的な会議の運営など長時間勤務縮減につながるよう働き方改革に取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成31年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>◆生徒アンケート◆</p> <p>【学習指導】「授業はわかりやすい」76%→81%、「グループ学習、発表形式の学習」61%→71%、「先生は教え方に工夫」75%→82%、「学習の遅れを取り戻したり困難な時でも学習を助けてくれる」72%→80%。</p> <p>これまで学校全体として取り組んできた生徒の視点に立った授業改善の成果が上がっている。《めざす学校像①》</p> <p>【生徒指導】「生徒を公平に指導してくれる」68%→72%、「学校生活を気持ちよく遅れるよう注意や励ましてくれる」71%→79、「先生は悩みや困っていることに相談ののってくれる」76%→76%、「先生</p>	<p>【第1回】6月9日（土）10:40~11:30</p> <p>（学校より）（1）H30学校経営計画について説明。</p> <p>（2）31年度末の閉校にむけての取組みについて（将来検討委員会より報告）。</p> <p>（意見）〇生徒のことを第一に考えた方針になっていると思う。</p> <p>私が高校生の頃と違って、教員が生徒の方を向いてやっている。今の生徒が羨ましく思う。</p> <p>〇私は、卒業した中学校が統廃合ですでに無くなったので、母校がないという寂しさはよくわかる。生徒の中から、そのような寂しい気持ちは出てきてないだろうか。また生徒へのケアはいかがか。→閉校についての声は、在校生よりも卒業生からよく聞く。現状では、在校生にはまだ実感がないのでは。</p> <p>〇卒業生に対して、閉校の時は是非とも声掛けをしてほしいと思います。</p> <p>〇PTAの活動に携わった方々も大正高校のことが大好きです。それらの方にも声掛けをお願いします。→次年</p>

府立大正高等学校

は生徒の身になって考え行動してくれる」69%→77%、「お互いを思いやることの大切さを学んでいる」73%→81%。

各項目とも昨年度より数値が上昇。《めざす学校像②》の人権教育を基盤とした安全安心の学校づくりが着実に進展している。

【生徒会】「体育祭や文化祭の生徒会行事に楽しく参加している」75%→77%、「遠足などクラス活動には楽しく参加」78%→79%。「学校へ行くのが楽しい」66%→74%。2・3年の2学年での行事であるが工夫を凝らし満足度は落ちていない。次年度はより魅力ある行事づくりをめざしたい。《めざす学校像④》

【進路指導】「進路についての情報を知らせてくれる」80%→86%、「生き方を考えるプログラムがある」72%→80%、「先生は進路について将来をともに考えてくれる」79%→82%。

いずれも数値が大きく向上。《めざす学校像③》を実現すべく最終年度はよりきめ細かな進路指導をすすめたい。

◆保護者向けアンケート◆

「こどもが授業が楽しくわかりやすい」59%→71%、「学習の遅れを取り戻したり困難な時でも学習を助けてくれる」79%→84%「大正高校の生徒指導方針は理解できる」75%→84%。

その他の学習指導や生徒指導についての項目は80%を超える高い数値で肯定的に受け止められている。

進路指導については、「適切な進路指導を行っている」85%→89%、「家庭への適切な情報提供」76%→83%、「保護者の相談にのってくれる機会がある」76%→80%。丁寧な指導の結果、概ねよい評価が得られている。

◆教員向けアンケート◆

「参加体験型学習、グループ学習、問題解決型学習など工夫改善を行っている」81%→95%、「教育相談体制が整備」H28:65%→H29:79%→H30:90%、「人権について考える機会を設けている」92%→98%（よくあてはまる48%）、「生徒が互いに思いやる環境づくり」81%→90%、「教員間が相互理解し合い信頼関係が醸成」85%→93%、「PTA・同窓会と連携した教育活動」77%→88%。

昨年度より導入したスクールソーシャルワーカー（SSW）が校内で定着し組織的な相談体制が一層強化された。

一方で「部活動の活性化」は72%→55%と大きく落ち込んだ。

度は教職員が半減することが考えられる。少ない人数の教職員で多くの行事や取組みを回していけるかという不安がある。外部からの支援をお願いしたい。

○大正高校なくなってしまうと、もう入れないし集まることも叶わない。協力する。

○私の入学当時の大正高校は教員も少なく設備も十分でなかった。教室は1/3、フェンスもなし、体育館もなかった。けれどそれでやっていた。何とか熱意で頑張ってください。

(3) その他

①進路状況について

（学校）昨年度は売り手市場だった。求人も多く、さらに600社中100社は指定校求人を出している。長い付き合いを続けている企業も多く、その中には卒業生の先輩が中心となって活躍しているところも少なくない。（意見）○せっかくの企業との関係が閉校で途切れてしまうのは残念だ。→泉尾（大正白稜）高校の進路指導部と連携を始めているところだ。

②平成31年度使用教科書の選定について

（学校）現在選定作業を進めている。学年は一つしかなくなるが慎重に進めている。結果は、次回（第2回）で報告する。

【第2回】11月10日（土）10:40～11:30

（○印：協議会委員の発言、*印：学校長及び事務局員の発言、→：学校からのコメント）

(1)「平成30年度 学校経営計画」の進捗状況について（学校長より説明（別紙資料参照））

①「わかる」授業について

②一人ひとりを大切にする安全安心の学校づくりについて

*スクールソーシャルワーカー（SSW）を学校独自に導入して生徒支援を行っている。

*欠席・遅刻数が昨年度に比べて増加している。（×1.28倍）

*1学期に実施した「安心アンケート」では良い結果が出ている。しかしながら、2年生で10名、3年生で8名が「不安を感じている」と回答している。担任から聴き取りを行うなど丁寧に対応している。

*6月の地震、9月の台風と自然災害に対する対応に迫られた。特に6月の地震では、いざグラウンドに避難してみると指揮系統などで防災マニュアルに改善が必要なことがたくさん出てきたため、すぐに修正を行った。生徒には防災HRを実施している。

○地震で震度5以上の場合とか何かあって生徒を帰宅させる場合の基準はあるのか？ 家庭までの帰路の安全確認や、保護者が在宅しているかとか、多くの確認事項が考えられるがどうしているのか？→6月の地震ではグラウンド集合後に生徒を待機させ、周囲の交通状況をはじめ安全確認を行って、徒歩や自転車の生徒は帰宅させた。交通機関がストップして帰れない生徒は体育館に集めて、家庭との連絡がつき次第交通機関の復旧を待って帰宅させた。

○中学校では、保護者の不在時にどうするのか、その場合の連絡方法等に検討の余地や不安があると感じている。→生徒の安否確認の方法確立が今後の課題である。全校生徒に電話確認を行うのは無理があるため、インターネットを用いるしかない。4種類のアプリ等が候補に挙がっている。また、支援学校ですでにそのような連絡方法を行っているところがある。

③「面倒見のよい」学校について

*就職については、引き続き景気の良い状態が続いている。求人数も昨年度600から今年度1000に増加している。詳細は後ほど報告。

④ 閉校に向けての取組みについて

*大正高校の完成が目標。*今年度体育祭は2学年だけの行事になったが、終了後の生徒アンケートでは否定的な意見が無かった。さらに、「準備期間が短かった。」等の前向きにやろうとする意見もあった。

(2) 進路指導の状況について（担当首席より説明（別紙資料参照））

*求人数では指定校求人も増加している。*大学進学については、各大学の割り増し合格数が減少してきているため、厳しくなってきたという感じがしている。

(3) 閉校事業に向けて

① 第2回閉校記念事業実行委員会 12/15(土) 13:00～

*10月20日（土）に同窓生の内、1期生から7期生まで約300人が来校するイベント（同窓会）を行った。校内見学と食堂を営業してもらって在学当時のメニューでの販売も行った。

*この同窓会に倣って、閉校前に学校に同窓生が集まるイベントを計画している。日程・内容の計画を詰めて、次に案内を作成する段階に来ている。*また、大正白稜高校に記念室を設けることが決定している。閉校後に、そこに保存する物品の選定や準備を行っている。

②将来検討委員会より

*次年度は教員数が17名前後（今年度35名）になると予想される。その人数で何ができるのか、校内組織の見直しや行事の検討を行っている。休み時間の立ち番や部活動顧問など人的には非常に厳しい。

*文化祭や体育祭は一つの学年だけでどうなるのかという不安も大きいですが、生徒たちの希望を聞きながら作り上げていく。

○文化祭のPTA企画では、事前の生徒アンケートをもとにK-POPなどの景品グッズを作成してくじ引きを行った。生徒の喜ぶものをして、笑顔が見たいと考えて企画した。当たったグッズの物々交換を普段交わらない生徒同士が行うなど大いに盛り上がった。*文化祭後は生徒の表情が和らいだように感じる。出席も良くなった。

【第3回】3月5日（火）13:00～14:00

(1)「学校教育自己診断アンケート」結果より

○生徒で回答していない人数が約1割いる。その理由は？→* 不登校を含めた欠席が主な理由である。

○この1割の数字が大切なのではない。○保護者についても回答者が約6割なので、お世話になっている学校に対して意識が低いと感じられる残念だ。○生徒がアンケート用紙を保護者に渡していないのか、渡したけど回答が無いのか、いずれにしても残念だ。○保護者の回答内容も、肯定率等は全体的にアップしていて悪い数字ではない。○回収できていない部分のアンケート結果がポイントとなる。

(2)「平成30年度 学校教育計画」のまとめ

*アンケート結果を踏まえて、数値的には次年度末までの中期目標を既にクリアしたのとなっている。ただ、あくまで数字の上だけのもので、内容が伴わないといけな。まだまだ、検討や対応していかなければならない

ことがある。

*安全・安心な学校づくりについて、本校独自の「安心アンケート」を以前から実施して検証してきている。登校している生徒の回答では高い数値を示している。欠席生徒についても、担任から聞き取りを進めるなどの追跡的なフォローを行っている。*卒業生の中に進路未定者がまだ20名いる。今後も対応していく。

○「英語多読ルーム」とはどのような部屋か？*1ページに英文がほんの1行程度しかない絵本のようなものから、文章量や内容が9段階の英語の本を用意して、生徒が自分の学習レベルに合わせた内容の読み方ができるようにしている。

○「わかる授業」に対する組織的な取組はどのようなものか？

*本校は少人数展開の授業が多いので、生徒が自ら学ぶシステムを作りやすい状況になっている。

*平成28年度はプロジェクターの全ホームルーム教室への導入を機に、アクティブラーニングを中心に組織的に取り組んだ。29年度、今年度はそれをもとに各教員が個人レベルで取り組んできた。今年度は組織的にというとできていない。*今年度は、支援教育の視点を取り入れた「生徒個々の多様性に合わせた指導」を始めた。

(3) 「平成31年度 学校教育計画」(案)について

*次年度の計画について目標値は変えていない。目先の数値ではなく内容の段階に来ている。すべては、生徒の充実感に尽きると考えている。*次年度、教職員は半減する。18名でやりくりするしかない。校内体制を見直し分掌再編を行ったり、職員室を一つにするなどシステム面の手当てを始めている。それとともに教職員のやる気と業務を行いやすい環境づくりに留意して、マインド面でも校内体制をしっかりと構築したい。

→「平成31年度 学校教育計画」(案)承認

(4) 学校の取組みより

*進路状況報告(別紙)・就職者は50%を超え、例年より多かった。求人も内定者100人弱に対して1000件を超えており、希望者にとっては良い状況が続いている。・介護職に4名が就職する。キツイ仕事と言われてきたが、様々な面で待遇が良くなり希望者が出てきた。・医療系など3大学で、初めての合格者が出た。いずれも学力試験をパスしており、夏休みや放課後などコツコツ努力した生徒たちである。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「わかる授業」	(1) 主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善	(1) ア 基礎知識の習得、コミュニケーション能力の向上、学習意欲を高める取組を組織的にすすめる。また評価方法の研究も引き続き行う。 イ プロジェクター等を活用したわかりやすい授業で生徒の満足度を向上させる。(H28-H30 学校経営推進費対象事業)	(1) ア 学校教育自己診断(生徒) 「わかりやすい」H29:76%→78% 「考え・発表する」H29:61%→70% イ 学校教育自己診断(生徒) 「工夫している」H29:75%→78% (教員)「ICT等の設備の活用」94%→維持(H29 94.4%)	(1) ア「わかりやすい」76%→81% 「考え・発表する」61%→71% 教員「参加体験型・グループ学習・問題解決型学習など工夫」81%→95%と学習形態の工夫改善を図った結果が生徒への反映されている。(◎) イ 生徒「先生は教え方に工夫」75%→82%、教員「教材の精選・工夫」94%→97% (◎) 教員「情報機器等の学習活動への活用」94%→90%(△) プロジェクター等活用の数字は若干低下したが、授業やHRで日常的に活用されており、この3年間90%台を維持している。 ・「英語多読ルーム」の新設：英語の絵本612冊導入、半円の座席で活動的な授業展開を実施。

府立大正高等学校

2 一人ひとりを大切に 安全安心な学校づくり	<p>(1) 支援体制の充実</p> <p>(2) 防災教育の充実</p> <p>(3) 携帯情報端末機器の扱い</p> <p>(4) 校内環境・設備の充実、校内美化</p>	<p>(1)</p> <p>ア SC や SSW など外部人材や外部機関との連携をより効果的にシーム学校としての指導体制を行う。結果、中途退学者の減少につながる。また遅刻回数の減少を図る。</p> <p>イ HR 等で人権を大切に作る学校体制づくり</p> <p>ウ 安心アンケート等で、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に取り組む。</p> <p>(2) 学年ごとの防災教育の内容を充実させ、多様な状況にあったプログラムづくりをすすめる。</p> <p>(3) スマートフォンやタブレット端末の正しい扱いや SNS 上での個人情報の適正な取扱いを知るとともに、自分を守り人を傷つけない方法を身に付けさせる。</p> <p>(4)</p> <p>ア 各学期末ごとの椅子の破損など安全点検をきめ細かに行う。</p> <p>イ 美化月間を実施し校内美化の意識を高める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校教育自己診断(教員)「外部人材や外部機関との連携」H29:76%→78%、「教育相談体制の整備」80%以上(H29 79%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中退者 →10人以下(H29 26名) ・遅刻回数 H29:4700件→3000件 <p>イ 学校教育自己診断(生徒)「互いに思いやることの大切さを学ぶ」H29:73%→77%</p> <p>ウ 安心アンケートから安心度の向上不安度の肯定的回答 90%以上</p> <p>(2) 学校教育自己診断(生徒)「防災について学ぶ機会」80%以上</p> <p>(3) 生徒指導講演や HR など実施状況。</p> <p>(4)</p> <p>ア 学校教育自己診断(生徒)「施設・設備の安全衛生面」H29:66%→68%</p> <p>イ 校内美化活動、清掃状況の把握を行う。(実施期間、状況)</p>	<p>(1)</p> <p>ア「外部人材や外部機関との連携」76%→74%、(○) 数値はやや低下したが校内体制は昨年度より充実し活性化「教育相談体制の整備」79%→90%(◎) SC や SSW の訪問回数：年 14 回来校。教育相談コーディネータを中心に担任との連携が組織的に取り組んでいる。 ・中退者:6名(転学 15名) 3/29付(○) ・遅刻回数:2月末現在 3293回(H29:3673回) 毎日の放課後に事後指導を行ったが、大幅な軽減にはつながっていない。(△) イ「互いに思いやることの大切さを学ぶ」(生徒)73%→88%(◎) 「人権について考える機会を設けている」(教員)92%→98% 人権 HR の充実をはじめいじめも防止委員会の取組みの反映。</p> <p>ウ 安心アンケート(6/12月) 安心度を 5 点満点 5 段階で集計。「3」以上肯定的回答 95.6%、平均 4.22(ただし有効回答で算出)(◎)</p> <p>(2) 防災教育 「災害時の対応を学ぶ機会」80%→85% ・防災避難訓練(地震対応)や防災 HR「3 日間生き抜くには」(防災カードで班学習)(◎)</p> <p>(3) 情報の授業で実施。(○)</p> <p>(4) ア、安全点検 6/21、12/12 「施設・設備の安全衛生面」66%→70%(◎) イ、キレイチェック実施 11/5-9(◎)</p>
3 多様な進路実現を支援	<p>(1) 就職内定率、進学決定率の向上</p> <p>(2) キャリア教育の充実</p> <p>(3) 地域での職場体験・実習などの充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア 就職内定率、進学決定の上昇を図り進路未定率の減少を図る。</p> <p>イ 進学指導体制の充実</p> <p>(2) 学校外の人材や資産(施設・設備・機関)の活用を図る。</p> <p>(3) 地域の企業、施設、区役所などと連携し応募前職場体験やインターンシップを充実させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 就職内定率 100% 進学決定率 100% 進路未定率 15%以下</p> <p>イ 進学講習の充実や大学見学、進学資金説明会などの実施状況(H29 の状況維持またはそれ以上の回数)</p> <p>(2) 回数と内容を把握する。(長期休業中講習の実施 10 日以上)</p> <p>(3) 参加生徒数 10 名以上。 職場体験は斡旋希望者の参加割合の増加(80%以上)</p>	<p>(1) 3月 15 現在</p> <p>ア 就職内定 94 名(100%) 進学決定者 70 名(100%) 進路未定者 21 名(11%)(H29: 15%)(◎)</p> <p>イ 夏期講習・放課後学習の実施 夏期 7 日、冬期 4 日で例年通り実施(○)</p> <p>(2) 大手前大学の英語出前授業、体験授業(7月)(○)</p> <p>(3) 2 年生インターンシップ: 6 名(保育所 3、特養 2、病院 1)(△) ・応募前職場体験: 81 社、(◎) 参加生徒のべ 136 名(～8/10)</p>
4 閉校にむけて校内体制の改編	<p>(1) 学校行事の創意工夫</p> <p>(2) 効率的な校内体制の構築</p> <p>(3) 働き方改革</p>	<p>(1) 学年減のもとで、文化祭や体育祭などの学校行事に工夫を凝らしより一層活性化を図る。</p> <p>(2) 効率的な校内分掌運営や教員体制の工夫と一致団結した教職員集団づくり</p> <p>(3) 効率的な会議運営の工夫</p>	<p>(1) 学校教育自己診断(生徒)「体育祭や文化祭には楽しく参加」74.9%→78% ・「学校へ行くのが楽しい」66.3→70%</p> <p>(2) 学校教育自己診断(教員)「教員間が相互理解しあい信頼関係が醸成」84.6%→90%</p> <p>(3) 職員会議や分掌会議の回数減</p>	<p>(1) 「体育祭や文化祭には楽しく参加」74.9%→77.0%(○) ・「学校へ行くのが楽しい」66.3→74.1%(◎) 2・3年の二学年での行事開催にもかかわらず内容に工夫を凝らし満足度は向上した。</p> <p>(2) 「教員間が相互理解しあい信頼関係が醸成」84.6%→92.5%(◎) 「教員間の連携が緊密に行われ情報共有し組織として機能」84.6%→87.5%(◎) H29: 78.1 から+9.1 上昇し組織力は向上。</p> <p>(3) 職員会議を 18 回→14 回(1 月末現在) 6・9・11・1 月を各 1 回ずつにし 4 回減(◎) ・学校休業日 8/13-15 設定</p>